

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/03/01

主な手掛かり材料は米国と欧州か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	RBAは金利よりも声明文か	2-3
		予想レンジ: 91.20 ~ 96.60 円	
<u>NZドル/円</u>	↓	RBNZの声明文に注目	4-5
		予想レンジ: 73.30 ~ 78.30 円	
<u>ランド/円</u>	↓	スト・貿易赤字が重石	6-7
		予想レンジ: 9.60 ~ 10.60 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



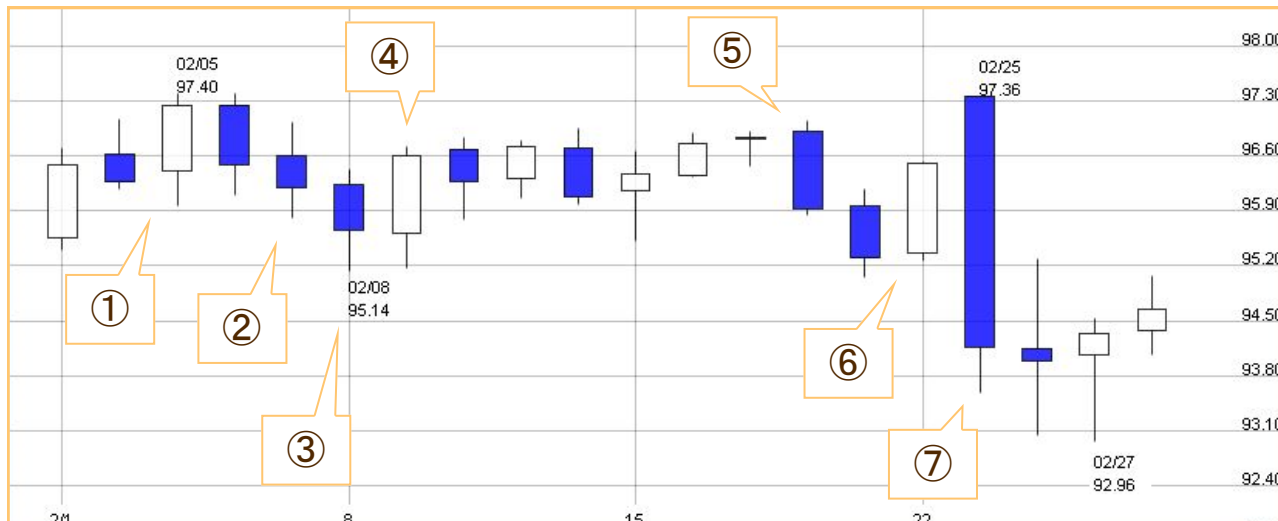
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	95.56円	97.40円	92.96円	94.65円



- ① 5日、一部で利下げ観測がくすぶる中、豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを決定すると、豪ドル/円は上昇。ただ声明文で「インフレの状況により、必要なら追加緩和の余地がある」「今後1年の経済成長率はトレンドをやや下回る可能性が高い」など、緩和的な姿勢維持が伝えられると急反落した。しかしその後、白川日銀総裁が「(二人の副総裁の任期満了に合わせ)3月19日をもって職を辞する事を安倍首相に申し上げた」と発言し、新体制の下で一段の金融緩和が進むとの見方から円売りが優勢となった。NYダウ平均株価の堅調推移もあり、引け間際に97.40円まで上昇した。
- ② 7日、豪1月失業率が5.4%、新規雇用者数は1.04万人と予想(5.5%、0.60万人増)より強い内容。だが内訳は常勤雇用者数が3カ月連続で減少し、労働参加率も前月より低下した為、下落した。
- ③ 8日、RBAは四半期金融政策報告にて、2013年のGDP伸び率を2.50%(従来2.75%)、インフレ見通しを3.00%(同3.25%)に引き下げた。さらに麻生財務相が「円安のスピードが速すぎる」と発言した事をきっかけに円買い戻しが急速に進むと、豪ドル/円はストップを巻き込みながら95.14円まで急落した。
- ④ 11日、黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が「物価目標のため、日銀は年内の追加金融緩和を正当化できる」「日銀が買える資産はいくらでもある」「(現在の為替相場について)持続不可能な円高の調整」等と発言。欧州市場で円売り材料として蒸し返され、豪ドル/円は上昇。米ブレイナード財務次官が「日本の成長支援・デフレ脱却に向けた措置を支援する」等と発言すると、一段と上昇した。
- ⑤ 20日、公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が「雇用市場の見通しが大幅に改善する前に現在の緩和的な金融政策を縮小または停止する可能性もある」など、ややタカ派的内容となった。これを受けてドル買いが強まり、豪ドル/米ドルが下落すると、豪ドル/円は値を下げた。FOMC声明を嫌気してNYダウ平均株価や原油相場が下落した事も重石となった。
- ⑥ 22日、スティーブンスRBA総裁が「豪ドルはやや過大評価されているが大幅にはではない」「現在の豪ドル水準は介入を正当化しない」などと発言した事を受けて豪ドル高が進行した。
- ⑦ 25日未明の「日銀総裁人事について『総裁に黒田氏、副総裁に岩田規久男氏と中曽氏で調整』」との報道を受け、金融緩和姿勢が維持されるとの期待感から円売りが進行。オープン前のオセアニア市場にて、豪ドル/円は2008年8月以来となる97.72円の高値を記録した。しかしイタリア総選挙の出口調査や開票速報の結果、中道左派が上院で過半数を獲得できない見通しとなった。これを受け、同国の財政再建が遅れるとの懸念からリスク回避の動きが強まると、ストップを巻き込みながら急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

2月の豪ドル/円相場は92.96円～97.40円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.8%の下落(豪ドル安・円高)となった。前半は安倍政権への期待からくる円安を背景に上昇したが、15・16日のG20にて「通貨の切り下げ競争を回避」等が声明に盛り込まれ、円高是正目的の外債購入ファンド導入の可能性が大きく低下。それまでの流れにわずかな変化が生じた。その後、次期日銀総裁人事についての観測報道で円売りが強まるも一時的となり、イタリア政局不安からくるリスク回避の動きを受けて反落。月足チャート上での連続陽線出現記録は5でストップした。

3月は、米国の金融政策が手掛かり材料となりそうだ。先月公表されたFOMC議事録にて、緩和的な金融政策を早期縮小・停止するとの観測が浮上。市場で金融緩和解除観測が一段と高まるようだと、緩和的政策を織り込んで上昇してきた米株が下落して豪ドル/円を下押す材料となりそうだ。ただし、現在の緩和的な金融政策が維持されつつ米経済の回復基調が強まる場面では、NYダウ平均株価の史上最高値更新が視野に入る。その場合は豪ドル/円の上昇要因となろう。その他、今月27日に期限を迎える暫定予算を始めとする米財政協議の行方や、イタリア政局の動向にも注目したい。

また、豪州では5日に金融政策発表が予定されている。足下の利下げ観測は大きく後退しており、市場の関心は政策金利の変更よりも声明文に集まりそうだ。先月のRBA理事会直後の声明文では利下げを示唆するも、議事録では利下げは差し迫ったものではない事が明らかとなった。先月、RBAは豪州の2013年のGDP見通しを引き下げた事から、今月の声明文でも緩和的な金融スタンス継続が予想されるものの、早期利下げを示唆しなければ豪ドルを売り込む材料にはなりにくいとする。RBAの金融スタンスを読み解く上で、豪州の経済指標や中国の景気動向にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:91.20～96.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

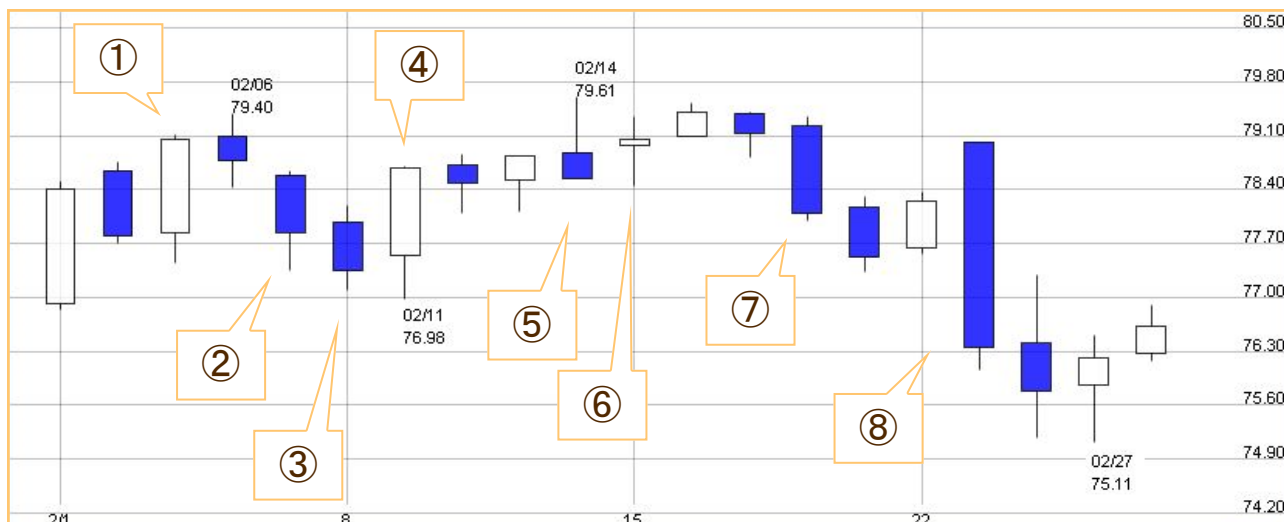
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月中国製造業PMI	3/8(金)	2月中国貿易収支
	2月米ISM製造業景況指数		2月米雇用統計
3/4(月)	1月豪住宅建設許可件数	3/9(土)	2月中国消費者物価指数
3/5(火)	第4四半期豪經常収支	3/12(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(2/13・14分)
	1月豪小売売上高	3/13(水)	2月米小売売上高
	RBAキャッチターゲット	3/14(木)	2月豪雇用統計
	2月米ISM非製造業景況指数	3/15(金)	3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/19(火)	RBA議事録
	米地区連銀経済報告	3/20(水)	FOMC政策金利発表
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～発表)	3/21(木)	2月日通関ベース貿易収支
	1月豪貿易収支		3月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	欧州中銀金融政策発表	3/28(木)	第4四半期米GDP・確報値
3/8(金)	1日日貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.91円	79.61円	75.11円	76.63円



- ① 5日、白川日銀総裁が「(二人の副総裁の任期満了に合わせ)3月19日をもって職を辞する事を安倍首相に申し上げた」と発言。新体制の下で一段の金融緩和が進むとの見方から円売りが優勢となった。NYダウ平均株価の堅調推移も、NZドル/円の上昇を後押しした。
- ② 7日、前日終盤に発表されたNZ第4四半期失業率が6.9%と予想(7.1%)より強い結果となった。ただ同時に発表された就業者数が減少した事が嫌気され、NZドル/円は取引開始直後から軟調に推移。
- ③ 8日、麻生財務相が「円安のスピードが速すぎる」と発言した事をきっかけに円買い戻しが急速に進むと、NZドル/円はストップを巻き込みながら77.10円まで急落した。
- ④ 11日、黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が「物価目標の為、日銀は年内の追加金融緩和を正当化できる」「日銀が買える資産はいくらでもある」「(現在の為替相場について)持続不可能な円高の調整」等と発言。欧州市場で円売り材料として蒸し返され、NZドル/円は上昇。米ブレイナード財務次官が「日本の成長支援・デフレ脱却に向けた措置を支援する」等と発言すると、一段と上昇した。
- ⑤ 14日、前日終盤に発表された1月NZビジネスPMIが55.2と前月の50.4から大きく上昇し、2012年5月以来の高水準となった。NZドル/円はこれを好感して高く始めると、その後の欧州市場でも蒸し返され、2008年7月以来となる79.61円を記録した。
- ⑥ 15日、前日終盤に発表されたNZ第4四半期小売売上高が前期比+2.1%と予想(+1.4%)を大きく上回った事が好感され、取引開始直後に前日終値から70銭超上昇。ただその後、日経平均株価の下げ幅拡大や、日銀次期総裁候補に武藤氏が浮上して円買い戻しが優勢となった事を受けて反落した。
- ⑦ 20日、ウィーラーNZ準備銀行(RBNZ)総裁が「必要となれば為替市場に介入する用意がある」等と発言。これを受けてNZドル/円は急落。その後公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録がややタカ派的内容となってドル買いが強まり、NZドル/米ドル相場でNZドル売り・米ドル買いが進んだ事も、NZドル/円の下落に拍車をかけた。
- ⑧ 25日未明の「日銀総裁人事について『総裁に黒田氏、副総裁に岩田規久男氏と中曽氏で調整』」との報道を受け、金融緩和姿勢が維持されるとの期待感から、オープン前のオセアニア市場で円売りが進行。NZドル/円は前週終値から約90銭高く寄り付いた。しかしイタリア総選挙の出口調査や開票速報の結果、中道左派が上院で過半数を獲得できない見通しとなった。これを受け、同国の財政再建が遅れるとの懸念からリスク回避の動きが強まると、ストップを巻き込みながら急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

2月のNZドル/円相場は75.11円～79.61円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.2%の下落(NZドル安・円高)となった。前半は安倍政権への期待からくる円安や、堅調なNZ経済を背景に上昇したが、15・16日のG20にて「通貨の切り下げ競争を回避」等が声明に盛り込まれ、円高是正目的の外債購入ファンド導入の可能性が大きく低下。それまでの流れにわずかな変化が生じた。イタリア政局不安からくるリスク回避の動きも重なると、月足チャート上での連続陽線出現記録は5でストップした。

3月は、米国の金融政策が手掛かり材料となりそうだ。先月公表されたFOMC議事録にて、緩和的な金融政策を早期縮小・停止するとの観測が浮上。市場で金融緩和解除観測が一段と高まるようだと、緩和的政策を織り込んで上昇してきた米株が下落してNZドル/円を下押す材料となりそうだ。ただし、現在の緩和的な金融政策が維持されつつ米経済の回復基調が強まる場面では、NYダウ平均株価の史上最高値更新が展開に視野に入る。その場合はNZドル/円の上昇要因となろう。その他、今月27日に期限を迎える暫定予算を始めとする米財政協議の行方や、イタリア政局の動向にも注目したい。

一方、NZ国内では、13日に金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置きがコンセンサスのため、発表される声明文に注目が集まっている。前回1月は国内景気に堅調な見通しを示すなど、予想外のタカ派的内容を受けてNZドル/円が上昇した。足下の堅調なファンダメンタルズを背景に今回もタカ派的な声明となれば、RBNZの年内利上げ開始観測(現時点では年後半～来年前半との予想が多い)が高まる事も考えられる。その場合、NZドル/円は買いが入りやすい展開が予想される。(川畑)

(予想レンジ: 73.30～78.30円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

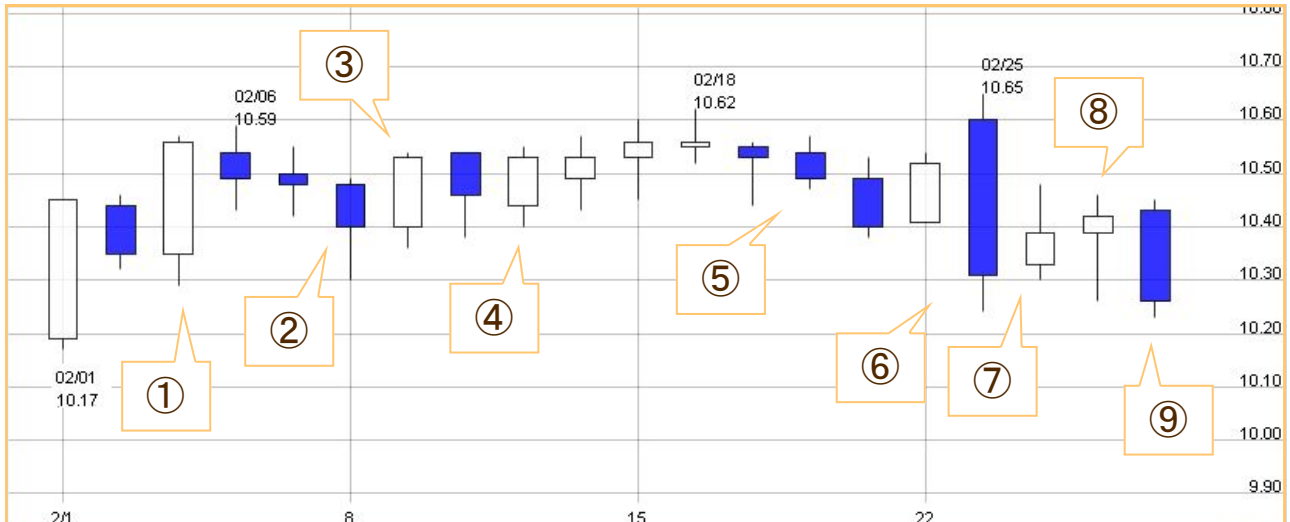
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月中国製造業PMI	3/12(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(2/13・14分)
	2月米ISM製造業景況指数	3/13(水)	2月米小売売上高
3/5(火)	2月米ISM非製造業景況指数		RBNZオフィシャル・キャッシュレートの
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/15(金)	3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	米地区連銀経済報告	3/19(火)	第4四半期NZ経常収支
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～発表)	3/20(水)	FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表		第4四半期NZGDP
	第4四半期NZ製造業売上高	3/21(木)	2月日通関ベース貿易収支
3/8(金)	1月日貿易収支		3月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	2月中国貿易収支	3/25(月)	2月NZ貿易収支
	2月米雇用統計	3/28(木)	第4四半期米GDP・確報値
3/9(土)	2月中国消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.19円	10.65円	10.17円	10.26円



- ① 5日、白川日銀総裁が「(二人の副総裁の任期満了に合わせ)3月19日をもって職を辞する事を安倍首相に申し上げた」と発言。新体制の下で一段の金融緩和が進むとの見方から円売りが優勢となった。NYダウ平均株価の堅調推移も、ランド/円相場の上昇を後押しした。
- ② 8日、麻生財務相が「円安のスピードが速すぎる」と発言した事をきっかけに円買い戻しが急速に進むと、ランド/円は一時10.30円まで下落した。
- ③ 11日、黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が「物価目標の為、日銀は年内の追加金融緩和を正当化できる」「日銀が買える資産はいくらでもある」「(現在の為替相場について)持続不可能な円高の調整」等と発言。欧州市場で円売り材料として蒸し返され、ランド/円は上昇。米ブレイナード財務次官が「日本の成長支援・デフレ脱却に向けた措置を支援する」等と発言すると、一段と上昇した。
- ④ 13日、南ア12月小売売上高が前年比+2.3%と予想(+1.6%)を上回った。これを受け、ランド/円は小幅ながらも値を上げた。
- ⑤ 20日、南ア1月消費者物価指数が前年比+5.4%と予想(+5.7%)を下回ったものの、市場の反応は限定的であった。
- ⑥ 25日未明の「日銀総裁人事について『総裁に黒田氏、副総裁に岩田規久男氏と中曽氏で調整』」との報道を受け、金融緩和姿勢が維持されるとの期待感から円売りが進行。オープン前のオセアニア市場にて、ランド/円は2012年4月以来となる10.69円の高値を記録。しかし、伊総選挙にてベルサニ氏率いる民主党が上院で過半数を取れないとの見方が広まると、同国の財政再建が停滞する懸念が浮上。これを嫌気してリスク回避の動きが強まると、10.24円まで急落した。
- ⑦ 26日、南ア第4四半期国内総生産(GDP)は前期比年率+2.1%と予想(+1.7%)を上回った。これを受け、ランド/円は発表前の水準から10銭近く上昇した。
- ⑧ 27日、ゴードン南ア財務相が「2013年の同国の財政赤字の対GDP目標を(従来の4.8%から)5.2%に引き上げる」「GDP成長見通しを(従来の3.0%から)2.7%に引き下げる」などと発言。これを嫌気して、ランド売りが強まった。その後ドル/円の下げも重なると、ランド/円は10.26円まで一段安となった。
- ⑨ 28日、南ア1月貿易収支は245億ランドの赤字と、予想(97億ランドの赤字)より赤字幅が拡大。これを嫌気してランド売りが優勢となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

2月のランド/円相場は10.17円～10.65円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.9%の上昇(ランド高・円安)となった。前半は安倍政権への期待からくる円安を背景に上昇したが、15・16日のG20にて「通貨の切り下げ競争を回避」等が声明に盛り込まれ、円高是正目的の外債購入ファンド導入の可能性が大きく低下。1月下旬からの円安の流れにわずかな変化が生じた。ごく短時間で終息したとはいえ鉱山ストも重石となった。その後、次期日銀総裁人事についての観測報道で円売りが強まるも一時的となり、イタリア政局不安からくるリスク回避の動きを受けて上げ幅を縮小した。

3月は、先月に続き、南ア国内の社会不安(スト)を背景に上値の重い展開が予想される。社会不安が沈静化したとしても、国内産業が持ち直すまでに時間がかかる。1月の貿易収支は市場予想よりも赤字幅が拡大、2012年1月以降赤字が続いており、資金フローの面からランド売り圧力がかかりやすい。ランド買い材料の少ない現状では、国内のスト頻発を始め、米財政協議の行方に不透明感が漂う、イタリア政局不安の長期化観測など、リスク回避局面では売られやすいと見る。仮に主要国での株高を理由に「リスク・オン」の流れとなったとしても、ランド/円の上昇の勢いは他の資源国通貨よりも劣るだろう(川畑)

(予想レンジ:9.60～10.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月中国製造業PMI	3/12(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(2/13・14分)
	2月米ISM製造業景況指数	3/13(水)	2月米小売売上高
3/5(火)	2月米ISM非製造業景況指数	3/15(金)	3月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/20(水)	2月南ア消費者物価指数
	米地区連銀経済報告		SARB政策金利発表
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～発表)		FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表	3/21(木)	2月日通関ベース貿易収支
3/8(金)	1月日貿易収支		3月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	2月中国貿易収支	3/28(木)	2月南ア生産者物価指数
	2月米雇用統計		2月南ア貿易収支
3/9(土)	2月中国消費者物価指数		第4四半期米GDP・確報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。